

# 「我が国の伝統や文化に関する教育の充実に係る調査研究」 完了報告書【実践校：山口県】

## 1. 現状と課題

### ＜山口県の方針及びこれまでの取組＞

○ 山口県教育委員会では、「未来を拓く たくましい『やまぐちっ子』の育成」を教育目標に掲げ、教育内容や指導・支援体制の充実、教育環境の整備など、学校・家庭・地域が一体となった取組を推進している。その中で、目指す「やまぐちっ子」の「すがた」の一つとして、「郷土に誇りと愛着をもち、グローバルな視点で社会に参画する人」を設定し、その実現のために、以下のような様々な取組を進めてきたところである。

- ・ 伝統、文化を継承する地域人材や、世界を舞台に活躍している人材と交流できる学習の機会を設定
- ・ 公民館や地域の関係団体等と連携し、児童生徒が地域の伝統、文化に触れることができる体験の機会を設定

○ とりわけ、本県の強みの一つに「やまぐち型地域連携教育」があり、地域との連携や校種間の連携がかなり進んでいると自負している。このベースのもと、各学校の特色に応じた教育活動が実践されている。

伝統や文化に関する教育の推進に関しても、単独校の実践に止まらず、接続する校種や地域全体を巻き込んだものにしていきたいと考えている。

○ 義務教育課では、主に次の二点に取り組んできた。

#### ① 伝統や文化に関する教育の充実に促すリーフレットの作成

平成 29・30 年度の国事業指定校による実践を掲載したリーフレットを作成し、県内の小・中・高等学校及び公民館に配布することで、実践校の事例や学習のポイント等を周知している。

また、成果物の活用を通じて、カリキュラム・マネジメントの視点から各学校の取組を整理するとともに、地域資源を十分に活用し、教育活動の充実につなげることの重要性を強調したい。

#### ② 伝統文化教材集の改訂

県内各地の教材を紹介するとともに、それらを活用した指導の展開例等を掲載している。（平成 22 年度：第一版・平成 26・27 年度：第二版・平成 30 年度：第三版）

### ＜成果・課題＞

○ こうした本県の取組に対して、平成 31 年 2 月に文部科学省で開催された「我が国の伝統や文化に関する教育の充実に係る調査研究」成果報告会において、担当視学官から次のような評価を得た。

- ・ 県全体の普及を視野にしたモデル・カリキュラムの作成し、従来の単発に終わりがちな取組を整理して可視化している。今後、汎用性の検証や地域の固有性を踏まえながらの活用方法の検討が必要である。
- ・ 平成 22 年以降、山口県伝統文化教材集を作成し、継続的な取組となっている。今回の研究指定校の取組を教材化するとともに、その活用の支援と検証を充実させると

よい。

## 2. 実施内容

### (1) 計画の概要

#### <研究テーマ>

児童生徒の資質・能力を高めるための伝統文化教育の在り方について  
～小中連携による持続可能なカリキュラムの作成～

#### <研究テーマに至った背景>

- ・ 本県の児童生徒の姿：地域に出向く機会や地域の方と関わる機会が多い一方、地域の課題を自分事として捉えていない
- ・ 各学校において、地域とともに学ぶ機会はあるが、そのことがどのような資質・能力を高めることと関わりがあるか明確になっていない
- ・ 教職員の担当者不足や異動に伴う継続の難しさ、地域の保存会等の高齢化など持続可能なものとして定着させる必要がある

#### <成果指標>

- ・ (学校に対して) 児童生徒の資質・能力を高めるために、伝統文化教育が有効であるか
- ・ (児童生徒に対して) 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあるか

### (2) 具体的な実施内容

類型Ⅰ	類型Ⅱ	類型Ⅲ
○	○	

#### ① 研究テーマ「児童生徒の資質・能力を高めるための伝統文化教育の在り方について～小中連携による持続可能なカリキュラムの作成～」に基づく学校支援

今年度は、実践校である周南市立和田小学校・和田中学校及び協力校の岩国市立岩国小学校・岩国中学校、萩市立大島小中学校の取組について把握するとともに、次の視点から今後の実践に向けた助言を行った。

- ・ 「伝統や文化に関する教育を充実させる4つのポイント」による取組の見直し
- ・ 管理職のリーダーシップと教職員の推進体制の構築

#### ② 伝統や文化に関するカリキュラム・マネジメント研修会の開催

今年度、11月22日に周南市立和田中学校で標記研修会を開催し、県内全ての市町から83人(校長6、教頭6、教諭52、教育委員会指導主事等19)が参加した。所管説明の後、和田中学校の生徒による三作神楽の披露、「和田学のススメ」の発表、校長による実践報告、昭和女子大学の緩利准教授による「地域資源を活用したカリキュラム・マネジメントについて」の講演を実施した。



生徒による神楽の披露



生徒による神楽の披露



生徒による発表の様子



講師による講演の様子

### ③ 「伝統や文化に関する教育を充実させる4つのポイント」の周知・啓発

今年度、平成29～30年度の研究をもとに、「伝統や文化に関する教育を充実させる4つのポイント（①ベースとなる「やまぐち型地域連携教育」の仕組み、②学校課題の解決に向けた教育課程の整理、③地域素材の教材化、④多様な学習経験（体験・多世代交流））として整理し、WEBページの作成やリーフレットの送付等により、県内の小中高等学校、公民館等に発信した。

### ④ 初任者や中堅の教員への啓発

やまぐち総合教育支援センターと連携を図り、初任者や中堅の教員に対して、伝統や文化に関する教育の充実について啓発を行っている。特に、中堅教員に対しては、配布資料に次のような内容を盛り込んでいる。

#### 【「伝統や文化に関する教育を充実させる4つのポイント」中堅教員に期待される役割】

- 1** ベースとなる「やまぐち型地域連携教育」の仕組みを生かす
  - ・自校のよさや課題を洗い出し、地域資源の効果的な活用方法等を提案し実践する。
- 2** 学校課題の解決に向けた教育課程の整理を行う
  - ・児童生徒に身に付けさせたい資質・能力の視点からこれまでの学校の取組を見直し、改善案を提示する。
- 3** 地域素材の教材化を図る
  - ・地域の人材や素材を取り入れた授業を積極的に行い、他の教員に向けて提案する。
- 4** 多様な学習経験（体験・多世代交流）を設定する
  - ・児童生徒が多様な学習に取り組めるような機会を設定し、保護者や地域に向けて発信する。

### (3) 成果物の概要

#### ○ 各学校における「学校・地域連携カリキュラム」の策定

各学校では、「社会に開かれた教育課程」の視点をもとに「学校・地域連携カリキュラム」を策定し、地域資源を有効に活用するためのグランドデザインとしている。このカリキュラムは、教員や地域人材等の意見をもとに随時見直しを図っている。

#### 〈和田中学校区の例〉

様式										
周南市立和田中学校区 地域と”共に”ある9年間の学びカリキュラム ふるさとを愛する心を育て、地域の担い手としての意識の高揚を図るための学びの見取り図 求める子ども像～ふるさと和田を愛し、夢や目標の実現に向かって努力する子ども～										
教科・領域等	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	中1年生	中2年生	中3年生	教科等における小中共通目標 学習態度・能力及び重点活動
国語	トワイライトスタイル 俳句会への投句	トワイライトスタイル 俳句会への投句	トワイライトスタイル 俳句会への投句 町について調べて紹介しよう	トワイライトスタイル 俳句会への投句	トワイライトスタイル 俳句会への投句	トワイライトスタイル 俳句会への投句 町の幸福	トワイライトスタイル 俳句会への投句	トワイライトスタイル 俳句会への投句	トワイライトスタイル 俳句会への投句	自分の考えを相手に確実に伝えるように表現できる力の育成
社会			「私たちの市周南」を使った学習 農家の仕事	「私たちの市周南」を使った学習			鎌倉時代の文化 (東大寺南大門の柱について)	日本の林業(和田丸太) 地形図の使い方 (和田の地形)	伝統文化の継承と探検 文化財保護	
算数・数学										
理科			身近な自然の観察	春の生き物秋の生き物	流れる水のはたらき 島地川観察	発電と電気の利用 島地ダム見学	植物のくらしとなま	地球の大気と天気の変化 ※CS主催の天体観測	宇宙の中の地球	
英語(外国語活動)								英語で町紹介	地域の方との英会話 教室	
音楽			篠笛体験日作神楽	篠笛体験日作神楽	篠笛体験日作神楽	篠笛体験日作神楽	地域の高齢の方との合唱	地域の高齢の方との合唱	地域の高齢の方との合唱	
図画工作・美術					和田の好きなところを描く		感謝をする食記念品作成	感謝をする食記念品作成	感謝をする食記念品作成	
体育・保健体育	さんさ踊り指導 駅伝大会	さんさ踊り指導 駅伝大会	さんさ踊り指導 駅伝大会	さんさ踊り指導 駅伝大会	さんさ踊り指導 駅伝大会	さんさ踊り指導 駅伝大会	さんさ踊り指導 駅伝大会	さんさ踊り指導 駅伝大会	さんさ踊り指導 駅伝大会	
家庭・技術家庭					調理実習の指導 コンニャク作り指導	調理実習の指導 コンニャク作り指導	地域の食材を使った、 豚汁・マドレーヌづくり	地域の食材を使った、 豚汁・マドレーヌづくり	地域の食材を使った、 豚汁・マドレーヌづくり	
道徳	地域の人の授業参加	地域の人の授業参加	地域の人の授業参加	地域の人の授業参加	地域の人の授業参加 津田恒美 紙芝居	地域の人の授業参加 津田恒美 紙芝居	地域の人の授業参加 道徳を考える授業の実施	地域の人の授業参加 道徳を考える授業の実施	地域の人の授業参加 道徳を考える授業の実施	
生活科	サツマイモ植え付け指導 昔の遊び体験 町探検 野原の販売体験	サツマイモ植え付け指導 昔の遊び体験 町探検 野原の販売体験								
総合的な学習			三作神楽練習 和田農産物加工所見学 茶工場 見学 津田恒美紙芝居	三作神楽練習 和田農産物加工所見学 茶工場 見学 津田恒美紙芝居	三作神楽練習 稲刈り体験	三作神楽練習 稲刈り体験	和田学 (三作神楽伝承活動 地域調査) 炭焼き体験	和田学 (三作神楽伝承活動 地域調査 小学校出前体験学習)	和田学 (三作神楽伝承活動 福祉体験学習 小学校出前体験学習)	
キャリア教育			職場見学(地域の産業・店)		立志式参加		島地川見学	職場体験学習	面接指導	
学校行事	和田を知ろう遠足	和田を知ろう遠足	和田を知ろう遠足 文化祭、三作神楽披露	和田を知ろう遠足 文化祭、三作神楽披露	和田を知ろう遠足 文化祭、三作神楽披露	和田を知ろう遠足 文化祭、三作神楽披露	和田学発表 三作神楽披露	和田学発表 三作神楽披露	和田学発表 三作神楽披露	
地域活動	敬老会の出演 地域と一緒のラジオ体操 祭りへの参加	敬老会の出演 地域と一緒のラジオ体操 祭りへの参加	地域と一緒のラジオ体操 祭りへの参加	地域と一緒のラジオ体操 祭りへの参加	地域と一緒のラジオ体操 祭りへの参加	地域と一緒のラジオ体操 祭りへの参加	地域の祭りの手伝い 参加	地域の祭りの手伝い 参加	地域の祭りの手伝い 参加	
ボランティア	地域清掃	地域清掃	地域清掃	地域清掃	地域清掃	地域清掃	ユネスコスクール加盟 高瀬峡清掃 猪曲清掃 大谷地域清掃	ユネスコスクール加盟 高瀬峡清掃 猪曲清掃 猪曲清掃 大谷地域清掃	ユネスコスクール加盟 高瀬峡清掃 猪曲清掃 猪曲清掃 大谷地域清掃	
その他	しめ縄作り体験 放課後子供教室 地区児童会 津田恒美 紙芝居	しめ縄作り体験 放課後子供教室 地区児童会 津田恒美 紙芝居	しめ縄作り体験 放課後子供教室 森林学習 地区児童会	しめ縄作り体験 放課後子供教室 森林学習 地区児童会	しめ縄作り体験 放課後子供教室 地区児童会	市子供議会参加 しめ縄作り体験 放課後子供教室 地区児童会	夏休み学習会朝のあいさつ活動 敬老会参加 一輪挿し教室	夏休み学習会朝のあいさつ活動 敬老会参加 一輪挿し教室	夏休み学習会朝のあいさつ活動 敬老会参加 一輪挿し教室	

### (4) 成果の検証

#### ① 実践校の児童生徒へのアンケート結果 (12月実施) から

和田小学校5・6年生と和田中学校1～3年生のアンケート結果は、次のとおりである(少人数のため、実数で表している)。

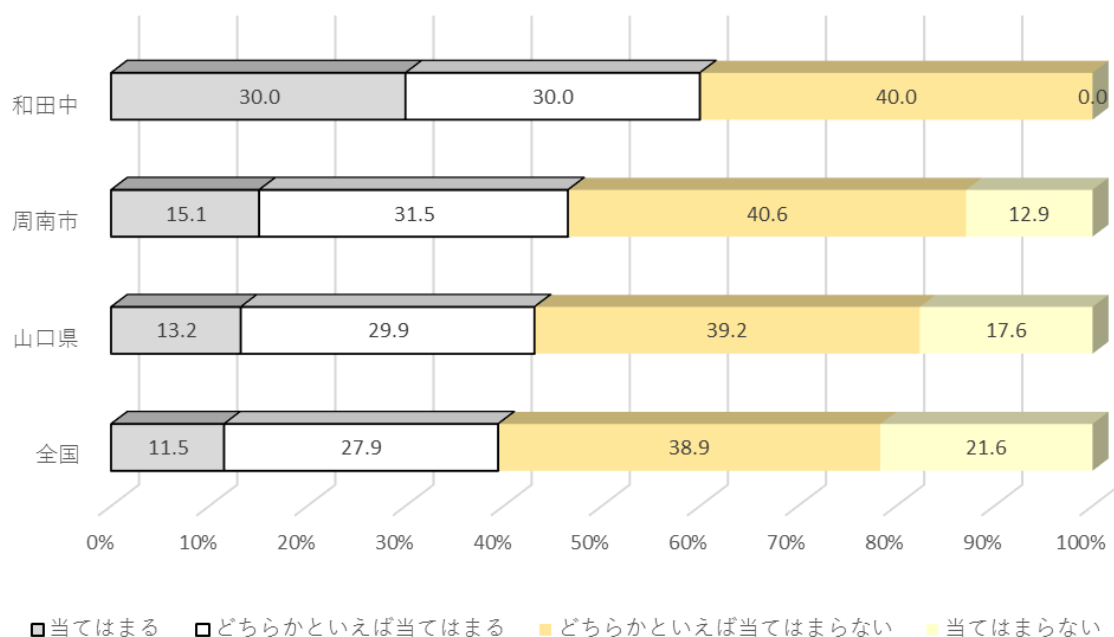
質問項目 (一部抜粋)	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
今住んでいる地域について学習することが好きである。	9人	12人	3人	0人
今住んでいる地域について学習することは役に立つと思う。	12人	10人	1人	1人
今住んでいる地域がよりよい地域になるために、自分が何をしたらよいかを考えることがある。	1人	13人	6人	4人
授業などにおいて、地域の「ひと」と一緒に、地域にある「もの」や「こと」について、体験する機会がよくある。	12人	10人	1人	1人

児童生徒は、自分が住んでいる地域を学習することについて、概ね肯定的に捉えている。一方で、「今住んでいる地域がよりよい地域になるために、自分が何をしたらよいかを考えることがある。」の質問については、肯定的な回答は半数強にとどまっている。この回答結果については、様々な理由が想定されるが、今後高めていきたい指標の一つである。

参考までに、全国学力・学習状況調査の質問紙調査における市平均等との比較を示している。

### 【参考】全国学力・学習状況調査の質問紙調査における結果（4月実施）

地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか



### ② 実践校の教員へのアンケート結果（12月実施）から

児童生徒に行ったアンケートでは、地域行事への参加や地域の伝統文化等を学ぶことに関して、概ね肯定的な回答を得ている。そこで、今年度は、学校の教員の意識調査を実施し、今後の実践の参考にしたいと考えた。

アンケート項目の「御自分の勤務校において、伝統や文化、地域に関する教育の取組状況についてどのように感じていますか」、「伝統や文化、地域に関する教育の充実を進めるべきだと考えますか」の設問に対しては、小学校、中学校ともに9割近くの教員が肯定的な回答をしている。

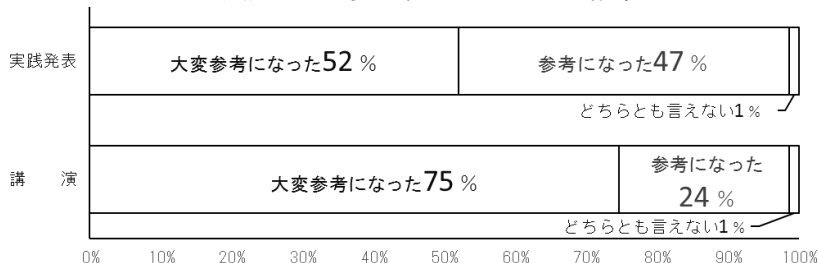
また、「伝統や文化、地域に関する教育について、今後、更なる充実を進める上で、どのようなことが重要であると考えられますか」の設問（複数回答可）に関して、小学校では「学校の実情に応じた教育課程の整備」が最も多く、次に「授業等の準備をするための時間の確保」が多い結果となった。一方で、中学校では「地域や家庭、関係機関等とのさらなる連携」が最も多く、次いで「校種間の更なる連携」、「適切な目標（育成すべき資質・能力等）の設定」が多く、小学校とはやや異なる結果となった。

③ 伝統や文化に関するカリキュラム・マネジメント研修会の参加者のアンケート結果から

和田小・中学校の実践を基に、伝統文化に関する地域資源を活用したカリキュラム・マネジメントの在り方について共有し、今後の各学校の取組に生かすことを目的として開催したが、参加者のアンケート結果によると肯定的な回答が多く寄せられ、当初の目的は概ね達成したと考える。

以下、参加者の意見を一部紹介する。

研修会への参加者のアンケート結果



- ・学校目標で育てたい子どもの資質・能力を明確にして、地域学習を通して育まれている姿、考え方がすばらしいと思った。
- ・総合的な学習の時間の見直しが必要であると職場でも話題になっているので、今日の研修はとても参考になった。自分の役割を考えて実行したい。
- ・今日の講演を聞いて、今後の新しい学びが展開される学校がイメージできて、楽しみになった。ポジティブな見通しをもって、若い先生方に働きかけていきたいと思う。
- ・総合的な学習の時間を中心としたカリキュラム・マネジメントの考え方がよく分かった。来年度の教育課程を考える中で参考にしたい。地域を舞台とした活動に取り組んでいきたい。
- ・地域の願いのこもった伝統文化の継承活動であることがよく分かった。

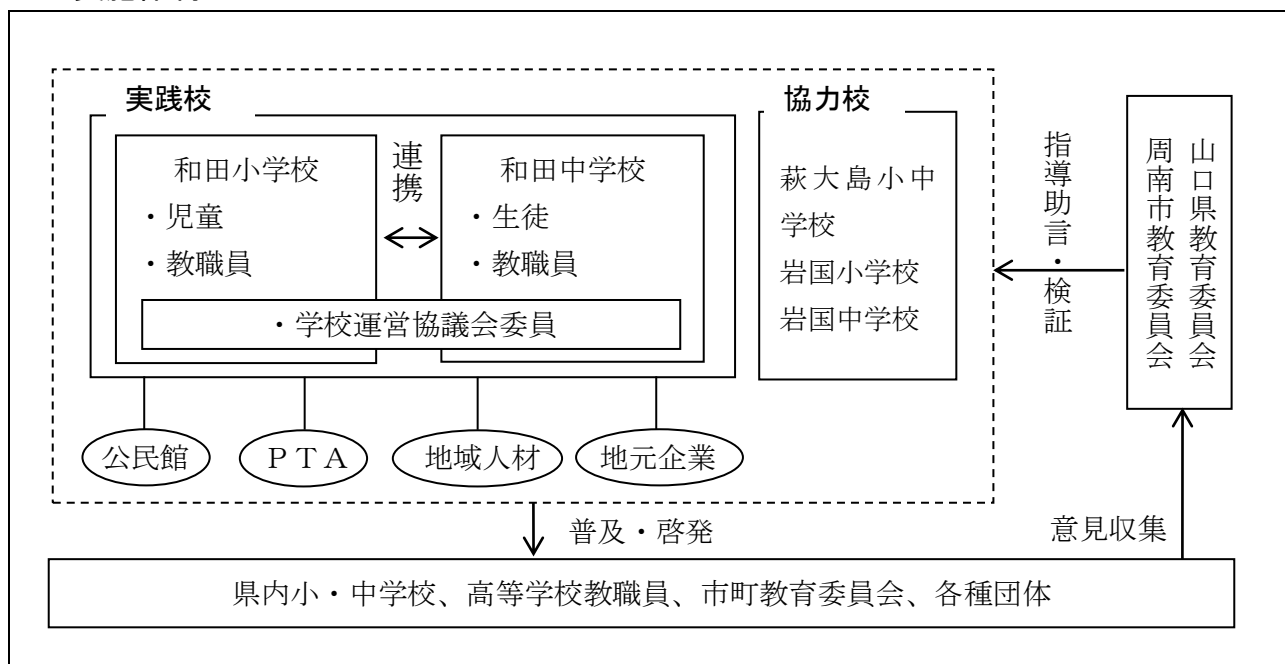
(5) 実施スケジュール

	実践の充実に向けて	伝統文化に関するカリキュラム作成	成果検証	学校訪問・先進校視察等
8月	・実践校・協力校訪問			
9月				
10月	・伝統や文化に関するカリキュラム・マネジメント研修会に向けた打合せ		・県学力定着状況確認問題（質問紙調査）	
11月	・伝統や文化に関するカリキュラム・マネジメント研修会			
12月			・実践校におけるアンケート調査の実施	
1月				
2月		・学校・地域連携カリキュラムの策定		・先進校視察 ・実践校・協力校訪問（次年度に向けた打合せ）
3月				・実践校・協力校訪問（次年度に向けた打合せ）

## (6) その他実施に当たって特筆すべき事項

特になし

### 3. 実施体制



### 4. 今後に向けて

#### ① 実践校・協力校による研究推進

実践校の教員へのアンケート結果によると、伝統や文化に関する教育の推進には多くの教員が意義を感じており、児童生徒の資質・能力の向上の面からも更なる充実を図りたいという思いがあるものの、小規模校では、教員数が少なく、地域連携の中核を担う教員がほぼいないことや、授業時数の確保等の課題も明白となった。特に、小学校では「伝統や文化に関する教育を進めるべきではあるが、英語やプログラミング教育等、新しく導入されるものも多く、教員は負担増と感じるだろう」といった声もあり、これらのバランスを図りながら取組を進めていくことが必要である。

#### ② 協力校（岩国市立岩国小学校・藤河小学校・御庄小学校・柱野小学校・岩国中学校、萩市立大島小中学校）の拡大及び支援

当初の計画では、岩国小・岩国中・大島小中学校の3校を協力校に指定する予定であったが、2年次は、これに藤河小・御庄小・柱野小の3校を加え、計6校としたいと考えている。

これら新たに加える3小学校は、岩国中学校区にあるため、既に小中一貫教育の視点から、伝統や文化に関する「きんたいきょう学」に取り組んでおり、2年次は、これら協力校への助言や支援に取り組むと考えている。

現在は、実践校及び協力校を訪問し、次年度に向けた取組の見直しについて依頼しているところである。具体的には、次の内容を依頼している。

- ・ 伝統文化を柱に据えた全体計画や年間計画の策定
- ・ 教科等横断的な授業の実践
- ・ 「伝統や文化に関するカリキュラム・マネジメント研修会」の開催及び事例発表

なお、現時点では、2年次の「伝統や文化に関するカリキュラム・マネジメント研修会」は、次のような内容を考えている。

- ・ 実践校（和田小・中学校）による教科等横断的な授業提案
- ・ 協力校（岩国市5校による「きんたいきょう学」、大島小中学校による「ふるさと学習」）の実践報告
- ・ 講師による実践の価値付けや各校が取り入れるべき視点の提示

このため、2年次は、6校の協力校に対しても、講師招聘や先進校視察の旅費等、可能な限り予算上の支援を行いたいと考えている。

### ③ 実践校及び協力校の取組の発信

平成29～30年度に本研究調査で作成したリーフレットは、各種研修会や県内全ての学校、公民館等に配布し、各方面から評価を得ることができた。今回の調査研究の成果についてもリーフレットの第2版として位置付け、より多くの学校に還元する予定である。

また、今年度開催したカリキュラム・マネジメント研修会を通して、県内の各学校の教育課程や総合的な学習の時間等の見直しが一層図られることを期待している。



**「我が国の伝統や文化に関する教育の充実に係る調査研究」  
完了報告書【実践校】**

1. 実践校について（2019年4月1日現在）

学校名	山口県周南市立和田小学校（しゅうなんしりつわだしょうがっこう）								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特・支	合計	教員数
学級数	1	複式		複式		1	1	5	5
児童数	4	7	8	2	5	3	2	31	
学校のホームページアドレス	<a href="http://www.shunan.ed.jp/wadasho/">http://www.shunan.ed.jp/wadasho/</a>								

学校名	山口県周南市立和田中学校（しゅうなんしりつわだちゅうがっこう）								
学年	1年	2年	3年	特・支				合計	教員数
学級数	1	1	1	1				4	7
生徒数	2	5	10	1				18	
学校のホームページアドレス	<a href="http://www.shunan.ed.jp/wadachu/news.html">http://www.shunan.ed.jp/wadachu/news.html</a>								

2. 現状と課題

（1）実践校の現状

和田小学校、和田中学校の小中共通の学校教育目標は「自分の良さをみつけ表現しよう」である。小・中学校の9年間を通して、自己肯定感をもつことを基盤にして、堂々と自分の考えを発信できる児童生徒の育成を目標に掲げている。

地域の三作神楽は、国の重要無形民俗文化財に指定されており、由来は約1300年前の大宝年間（8世紀初め）にさかのぼる。祈願成就のお礼に神楽を奉納したことが始まりとされ、全部で23の舞からなるこの神楽は、今でも、卯年と酉年の式年祭では、約9時間かけて全ての舞が披露されている。民俗芸能の多くは、口伝により伝承されているものであるが、近年、和田地区は少子高齢化に伴い、地域の伝統芸能の保存が危ぶまれている。和田小・中学校の児童生徒にとって、三作神楽保存会の方々との交流により伝承活動をすることは、世代が途絶えないための方策となり、郷土への愛着と誇りがもてる取組となることが期待できる。

小・中学校では、これまでは総合的な学習の時間等を活用し、三作神楽の伝承活動と郷土である和田地区の地域学習を柱にして取り組んできた。

小学校では、式年祭で使用する切り絵（鳥居、波に鯛）の制作や、篠笛や合せ鉦・錫杖・太鼓の演奏体験等を行っている。

小、中学校共に、神楽保存会の方々を指導者に招聘し、1学期後半から2学期前半にかけて、週一回、舞や楽を学ぶ活動をしている。そして、その成果を和田小中合同文化祭や市の中学校音楽祭で披露している。今年度は、全国中学校総合文化祭「富山大会」で発表するために、さらに難しい演目に挑戦することで伝統文化の価値と継承する意義について理解を深めたいと考えている。また、中学校の地域学習「和田学のスズメ」では、これまでの「ふるさと和田に学ぶ」、「ふるさと和田に生きる」、「ふるさと和田に貢献する」活動が一定の成果を挙げたため、昨年度からアントレプレナーシップ（起業家精神）に基づいた新展開に着手することとした。昨年度は仮想株式

会社を立ち上げ、地域の伝統産業である「西見こんにゃく」を商品化し、地域の祭りで販売した。

## (2) 実践校の課題

小・中学校において、「三作神楽を基盤とした小中連携プログラム」の充実を図るとともに、特に、中学校では、学校教育目標である「自分の良さをみつけ表現しよう」という趣旨に基づき、「和田学」を推進することとした。まずは、三作神楽の継承活動の一環として、富山大会での披露を成功させるための活動の計画と実践に取り組んだ。他県のステージで多くの観客を魅了するような演目にするための時間確保や指導者との連携が課題となる。次に、「和田学のススメ」の新展開であるアントレプレナーシップによる地域貢献活動の発展と充実も代替わりし、島地川ダムを基盤とした学習に軸足を動かした。これまで学んできた成果を地域貢献という立場から発信する過程で、学校教育目標の達成にも資することができたと考えている。引き続き廃れつつある地域の活性化案を提案し、実際に宣伝・販売活動に貢献することで、地域を元気づけ、貢献する中学生の育成を図りたいと考えている。

いずれにしても、山間部の小規模校で、児童生徒数、教員数が減少する中で、従来の取組をさらにバージョンアップしていくために、取組を精選しチーム学校が機能することが改めて課題となる。

## 3. 実施内容

### (1) 計画の概要

#### ① 実施の目的

研究に取り組むことで、学校教育目標である「自分の良さをみつけ表現しよう」の実現に向けた児童生徒を育成する。

#### ② 研究テーマ

「地域と自分の良さを知り、主体的に発信できる生徒の育成」  
～伝統文化の継承と伝統産業の活性化活動を通して

#### ③ 取組内容

- ・「富山大会」での発表を中心とする三作神楽の継承活動への取組
- ・アントレプレナーシップに基づいた伝統産業の活性化提案による地域貢献活動

## (2) 具体的な実施内容

### ① 三作神楽の継承活動（小・中学校）

5月～7月は、例年通り、週1回1時間、三作神楽保存会の方々を講師に招聘し、小・中学校が合同で指導を受けた。5月の中学校3年生の修学旅行では、和田の情報発信を目的に、京都市の地下街ゼスト御池において三作神楽を披露し、観客を集めた。さらに、8月上旬の富山大会に向けて、舞い手を重点的に指導していただき、楽と合わせて発表演目を完成させることができた。8月22日・23日に開催された全国中学校文化祭（富山大会）では山口県代表として参加し、生徒全員による三作神楽を発表した。参加の支援をいただくために、学校運営協議会委員を中心とした実行委員会を立ち上げ募金活動を行う中で、和田中への出場と取組について広く周知することができた。また、例年通り、和田小中合同文化祭（10月26日）、周南市中学校音楽祭（11月1日）で披露した。

### ② アントレプレナーシップによる地域貢献活動（中学校）

#### ア 学年の取組

[1年生]～地域について調べる・知る学習への取組

[2年生]～「いのちを育む源」をテーマにした取組

○島地川ダムを中心に周辺地域の活性化案を検討し発信する（2年次）

島地川周辺の活性化と環境整備について考え、文化祭で発表した。堰堤のペイントや、ダムカレーの制作等を提案できた。

[3年生]～「和田の資源を生かした起業家提案」をテーマにした取組

○修学旅行で学んだ知恵から、地域の伝統産業の活性化案を考える。

修学旅行で知った工夫を地域の伝統産業や地域の特産物の再生化に役立てようと、商品化案を練り参観日や文化祭で発表した。

#### イ 表現する場の保障

- ・和田小中合同文化祭で発表した。
- ・夏の再生資源回収作業の後で、富山大会の様子を地域へ発表した。
- ・礼状に富山大会の概要や生徒の感想をまとめて地域へ配布した。

※ 教育課程上は総合的な学習の時間で実施した。

## (3) 成果の検証

1年次は、特に和田中学校の実践の充実に取り組んだため、以下、主に中学校の評価等について述べたい。

### ① 生徒の変容

[富山大会後の感想から]

○三作神楽を披露する前はドキドキしました。でも、「いつも通りやれば大丈夫」と心に言い聞かせて緊張を抑えていました。本番では今までの練習以上に集中してテンポを合わせて舞いました。その結果間違いもなくきれいに舞えたので、とてもうれしかったです。（2年）

→自分を表現する貴重な場を得て、経験できたことに喜びを感じている。

○終わった後、なぜかわくわくした気持ちになり、僕もやればできるんだと大きな

自信になりました。(3年)

→自己肯定感=自分の良さを知ることができた。

- 全国の舞台で発表するのは初めてだったので、手が震えて笛に入れる息も震えました。でも山口県代表として来ているのだから堂々とやろうと思い、顔を上げてしっかり前を見ながら演奏しました。滅多にないことなのでいい経験になりました。これを機に三作神楽が全国に広まったらいいなと思います。(3年)→自分たちが継承している伝統文化の良さを確認し、その発信を決意。

[年度末アンケート(中学校)]から

- 「地域で自慢できる『もの』『こと』『場所』の有無」肯定率76.5%

- 「地域で行われた行事への参加」肯定率76.5%

- 「自慢できる『もの』『こと』『場所』を知りたい」肯定率41.2%

自慢できる固有名詞を多く挙げており、7割以上の生徒はその存在を知っている。しかし、今以上知りたいと考えている生徒は半分以下であり、調べた成果が次の課題へとはつながっていない。また、地域ボランティアにも7割以上の生徒が参加している。

- 「今住んでいる地域を知る学習」については「関心がある」「学習が好き」「役に立つ」としている生徒は8割を越えており、ほとんどの生徒は学習に意義を感じており、意欲的に取り組んでいる。しかし、授業を離れると、自分自身の課題として考えたり、家庭で話題にしたりすることについては低調である。

- 「地域に関する授業」については9割を越える生徒が「話を聞く機会がある」「調べる機会がよくある」としており、その成果を「他の人に発表する機会がよくある」と答えた生徒も9割弱である。学校が「地域に関する授業」を積極的に活用し、情報を収集し、表現させていることを理解している。また、「地域の人と一緒に」体験したり、提案したりする機会があると答えた生徒はそれぞれ100%と82.4%であり、「地域と協働した活動」が意識されている。

## ② 保護者・地域の意見

[学校評価アンケート(中学校)から]

「様々な体験活動や地域活動等を通して、子どもたちは、心身ともに健やかに成長している」という項目において、保護者の肯定率は100%、地域人材等の肯定率は94.4%であり、三作神楽の継承活動や和田学の取組は十分に評価されている。

#### (4) 実施スケジュール

年・月	三作神楽の継承活動（小・中）	和田学のススメ（中）
元年 8月	○富山大会に向けての舞・楽の練習（6月から継続） 〈22日・23日〉 ◎全国中学校総合文化祭（富山大会）への参加	〈1日・2日〉 ◎2年生～職場体験 企業や労働について体験的に学ぶ ○職場体験のまとめ
9月	○富山大会の成果と課題のまとめ	〈20日〉 ◎3年生～福祉体験 福祉施設で体験学習を行う ○福祉体験のまとめ
10月	○文化祭に向けて舞・楽の練習  〈26日〉 ◎小中合同文化祭で三作神楽を披露・富山大会の概要を発表	○アントレプレナーシップによる地域貢献活動のまとめ 〈26日〉 ◎小中合同文化祭で職場体験・福祉体験・アントレプレナーシップによる地域貢献活動について発表
11月	〈1日〉 ◎周南市中学校音楽祭で三作神楽を披露 〈8日〉 ◎周南市立鼓南中学校との交流会で三作神楽を披露 ◎周南市小学校音楽祭で三作神楽を披露 〈22日〉 ◎山口県伝統文化マネジメント研修会の実践発表 三作神楽披露、富山大会の様子を発表	〈8日〉 ◎周南市立鼓南中学校との交流会で「和田学のススメ」について発表 ◎1年生～炭焼き体験  ◎山口県伝統文化マネジメント研修会 和田学のススメの新展開について発表
2年 3月	〈10日〉 ◎地域の皆様に感謝する会で三作神楽の継承活動の報告	〈10日〉 ◎地域の皆様に感謝する会で「和田学のススメ」の活動の報告

#### (5) その他実施計画について特筆すべき事項

三作神楽の継承活動については、三作神楽保存会の方々に多大なる支援をいただいている。

#### 4. 実施体制

全体統括＝校長 全体調整＝教頭 教育課程管理＝教務主任  
 三作神楽担当＝地域連携担当教員  
 「和田学のススメ」担当＝中学校研修主任  
 会計＝事務職員

## 5. 今後に向けて

### (1) 三作神楽継承活動の継続

来年度、中学校の生徒数は半減し、舞・楽のバランスが懸案事項となる。三作神楽保存会の方々と協議し、市中学校音楽祭に出場できるよう体制を整えていきたい。

### (2) 「和田学のススメ」のリニューアル

現在、2年生を中心に担当している「いのちを育む源」をテーマにした取組を中心にすすめたい。現在、「島地川ダム水源地域にぎわい検討会」に中学校が積極的に関わることで、ダムを中心とした和田地域の伝統文化の発信に取り組みたいと考えている。